

令和5年度 丹波篠山市地元就職推進委員会 会議録

1 附属機関等の会議の名称

丹波篠山市地元就職推進委員会

2 開催日時

令和6年2月28日（水） 18：30～20：00

3 開催場所

丹波篠山市民センター 研修室5

4 出席委員

樋口 一哉、塚本 光矢、臼井 和彦、北田 純、万年 禮、
畑 弘恵、仙林 寛実、井口 祐実、堀井 宏之

欠席委員

畑 美加、吉竹 藍、熊谷 拓朗、形部 文徳、波部 敦史、
吉見 知晴

事務局

企画総務部長 竹見 聖司、創造都市課長 藤田 尚位、
創造都市課長補佐 小倉 元一、地元就職支援室長 檜皮 恵子
(敬称略・順不同)

5 会議資料

- ・次第
- ・資料1 令和5年度 地元就職推進事業について
- ・資料2 市内高校における市内事業所への就職状況について
- ・資料3 令和6年度 地元就職推進事業について

6 審議の概要

1. 開会

2. あいさつ

副市長あいさつ

3. 報告事項

(1) 令和5年度 地元就職推進事業について

【事務局】 資料1 説明

【A 委員】 生徒さんに直接会う機会をつくっていただいて、ありがたい。企業で作っているものを知っていただくいい機会となる。実際に、こういった事業に参加して、企業に興味をもって来て、就職した従業員もいるので、続けていただきたい。

【B 委員】 12月に行われた仕事探究フェアに参加しました。ただ話をするだけでなく、会社で作っている商品やパネル展示を見たり、作業を体験することができ、しっかりした技術、伝統のある企業があることがよく分かった。生徒も、パンフレットを見るだけでなく、実際に体験させてもらうことでより、企業のことを知り、興味を持つことができたと思う。ぜひ、続けていただきたい。このような、素晴らしい企業があるということを保護者のみなさんにも知っていただきたく機会があるといいと思う。

【委員長】 保護者のみなさんに知ってもらえるような事業は実施していますか？

【事務局】 保護者に関して、以前は、保護者向けに企業見学会を実施していたときはあるのですが、参加者が少なかったため、現在は実施しておりません。現在は、企業紹介ガイドブックを作成したり、市の広報紙に企業の情報を掲載し、広報活動に力を入れている状況。

(2) 市内高校における市内事業所への就職状況について

【事務局】 資料2 説明

【委員長】 進学者は7割程度。市内には、大学がないので、地元を離れられる方も多い。就職される方の約3割が市内企業に就職されている現状。地元を離れられる方に情報を届けることが課題となっている。

4. 協議事項

(1) 令和6年度 地元就職推進事業について

【事務局】 資料3 説明

【C 委員】 2月22日、神戸で、丹波地域人材確保協議会が主催の就職情報交換会を行った。採用支援を行っている株式会社アローリンクのセミナーを受け、Z世代に届く最新の採用手法を学んだ。企業と学生の間でのコミュニケーションが大事。今の時代、学生をとりまく情報量が多すぎて、記憶から消えてしまう。印象づけることが大切。内定を出した後も、コミュニケーションをとることで、不安を払拭し、企業への帰属意識を高めることができる。セミナーで紹介されていたコミュニケーションの手法は、LINE だった。人手が足りない中で、時間をさくことが大変と思われるかもしれないが、手間をかけることが大切である。

【事務局】 私もこのセミナーを受けたが、Z世代は、この企業で自分は何ができるのか、どのように活躍できるのか、ということを求めている。不安を払拭することが大切だということ学んだ。

【C 委員】 兵庫型奨学金返済制度の拡充について説明。

対象企業となるのは、本社が県内にある中小企業・社会福祉法人等で、日本学生支援機構の奨学金受給者、県内事業所に勤務する正社員、40歳未満の者です。

現行では、年齢は30歳未満となっていましたが、40歳未満と拡充しており、補助期間についても、現行の5年から最大1

7年と延長されました。(要件によって、補助期間は異なる)
企業様には、是非この制度を活用いただきたい。

【事務局】 丹波篠山市としても、企業の負担を軽減できるように奨学金の返済制度については検討していく。

【委員長】 人材不足は、どの企業もかかえている課題。高校生は、進学率も高まっている状況なので、進学された方にも情報を届けられるように繋げていきたい。前回の会議で、ご意見いただいた求人情報サイト掲載費用への支援なども補助できるように考えておりますので、今回の会議でも、是非、色々なご意見を伺いたい。

【D 委員】 最近、YouTube 広告を利用して、篠山の魅力を発信しているのを見かけて、子どもたちも興味をもってもらえると思うので、YouTube 広告を利用して、篠山で働いたら楽しいよというのを発信したらいいのではないかと思う。進学することは、いいことだと思う。学生の夏休みを利用して、市内企業にインターンを受け入れてもらってはいかがか。企業の方とふれあうことによって、この会社で働きたいと思うのではないか。

LINE 登録者が増えたので、うまく利用して、インターンシップの情報を発信してはいかがか。

今は、転職する子も増えているので、地元を離れていても、丹波篠山市の就職情報などが目にとまって、きっかけとなればいいと思う。実際に働いてみて、経験をすることは、とてもいいことだと思う。

【事務局】 YouTube 広告については検討する。インターンシップの件については、企業ガイドブックにもインターンシップを実施している企業を多数掲載しているが、インターンシップの希望者が少ない状況である。インターンシップの希望者が増えるように考えていきたい。

【E 委員】 高校生の多くは、まだまだ自分では将来について決められない。今の時代は、情報量が多すぎて、何が大切なのが分かりづらく、ふりまわされる状況である。主体的にものごとを決め

ることができる力を育ててあげなければいけない。現在、取り組んでいる地域探求などで、そういった力を育てたいと思う。

【F 委員】 高校生に対するイベント等は充実しているし、就職者数に対する市内就職率の 27.8%は決して悪い数字ではない。そう考えると、次にターゲットをどこにするかがポイントとなってくる。市外に就職して、こんなはずじゃなかったと思っている子もいると思うので、そのような子をターゲットにするのか、大学に行く子をターゲットにするのか。どの層に対して、どのように情報を届けていくのか、考えることが大切。3年以内の離職率が高いので、市外で働いている子をターゲットにしてもよいと思う。
働く先輩のインタビュー等は、LINE で何回、配信してるのか。

【事務局】 LINE の配信は月 2 回程度。

【F 委員】 若い子たちが何を求めているのか。ご自身も LINE をしていて、どんな情報だったらほしいと思うかを考えてみると分かりやすいかもしれない。LINE は、情報にライブ感があり、生きているからいい。今、出している情報が本当に生きた情報なのか。市内企業からも情報を LINE に投稿できるようにすれば、生きた情報を届けられるのでいいのではないか。

【委員長】 進学者等にばかり目を向けていたが、市外企業に勤めている中でも何割かは離職するので、第 2 新卒をターゲットにするのもよいと思う。

【G 委員】 企業見学会の開催方法で、保護者向けだけに企業見学会をすると参加者が少なくなると思うが、子どもが参加する時に一緒に保護者も参加できるようにすればいいのではないか。企業には負担をかけるかもしれないけれど。保護者も企業の情報を知っていたら、子どもが悩んだときに相談にのりやすいので良いと思う。保護者に相談されるお子さんもたくさんいると思うので。離職率も高くなっているので、1年後、2年後の話ではなく、3年後、4年後の話になるかもしれないけれど、いい市内企業あったよねと思い出してもらえきっかけになると思う。

【委員長】 保護者同伴の事業はしたことがあるか？

【事務局】 以前に、保護者同伴という形では実施してないが、生徒とは別に、保護者の時間を設けて開催したことがある。結果は、あまりこなかった。高校の先生から何かいいアドバイスをいただけたらうれしい。

【B 委員】 今、開催している「しごと探究フェア」や「企業紹介フェア」などに、保護者も参加するのがいいと思う。申込をして参加するという堅苦しい感じではなく、子どもがイベントに参加する姿を見に来るといって授業参観のような気楽な感じで参加できるようにする方がいい。4、5年前と比べると働き方改革によって、平日でも休日も取りやすくなっている。離職する場合もあるかもしれないので、保護者も企業のことを知っているのと相談にのることもできる。イベントに実際に行ってみると、すごい企業だということを知ってもらうことができる。最初は保護者の参加が少ないかもしれないけど、何年か続けていくうちに、口コミで広がるかもしれない。

また、離職率も高くなっているので、第2新卒等にターゲットを広げるのはいいと思う。現在行っている、キャリア教育出前講座は、1年生全員を対象として行っているが、2年生、3年生となると就職希望者に向けて、企業紹介のイベントを実施している。進路のプログラムの都合もあるかもしれないが、進学希望者にとっても大学へ進学した後のキャリア教育として考えたら、就職希望者と一緒に企業紹介のイベントに参加してもよいと思う。

【H 委員】 篠山東雲高校でも1年生全員に対して、キャリア教育出前講座を行い、市内企業で働く方に来てもらって話をしてもらっている。2年生でも市内企業の見学や色々なイベントに参加している。兵庫県下では、高校を卒業して、就職した人の離職率は2割をちょっと超えるぐらいで、全国的な3割と比べると少ない。昔は、就職したら、総合力が重視されていて、企業で半年ないし1年の研修を受け、その後、どの部署があっているか配属されていた。今は、専門力が重視されていて、どんな資格を持っていて、何ができるのかという力がとわれている。今は、

情報があふれている時代。若い世代は、ラインよりもインスタグラムの方が人気のある印象がある。大学を卒業して、就職するときに、丹波篠山市の就職情報が届いたらいいと思う。保護者の方にも情報が届くと有効。

【A 委員】

今、実施しているイベントは、今すぐ就職する子にとっても、将来的に帰ってきたいと思っている子にとっても有効だと思うので、続けてほしい。

先日、某研究所が行っているセミナーに参加した。総務省の住民基本台帳人口移動報告書を基に作成されているデータを見ると、丹波篠山市の年齢別転入超過数は、2022 年では、20～29 歳で転出超過が目立っていたが、2023 年になると 20～29 歳で転出超過はあるものの、30～49 歳の転入超過、0～19 歳の転入超過の割合が増えている。つまり、子育て世代が丹波篠山市に転入してきている。その方たちは、どこで働いているのか？転入してきた方に市内企業に就職しませんか？と呼びかけるのも有効だと思う。社会経験を積んでこられている方は、いい人材となってくれる。

【委員長】

子育て世代の転入について、仕事の面ではどのような実態があるか教えてほしい。

【G 委員】

移住者の仕事の面では、6、7 割がテレワークをされている方。月に 2、3 回、会社に出勤したらいいという方が多い。引っ越しのエリアが広がったことで丹波篠山市を選ばれているのが現状。中には、就職先を紹介してほしいという需要もある。その場合は、ハローワークやしごと情報サイトを紹介している。住むところ、子育て環境、仕事環境をいっきに変えるのは難しいので、徐々に変えていこうとされる方が多い。

【委員長】

本日出た意見のまとめ

・これまでの高校生に向けた事業の取組みについては、すぐに効果が見られるものではないが、続けていくことで効果が出てくるので、継続して取り組む。今後は、保護者も参加できるように工夫をしながら、実施していくことが望ましい。

・高校生の次は、進学者をターゲットにしていたが、一度就職して、離職した後の第2新卒者もターゲットとしていくべき。

・しごと情報サイトのLINE登録者がかなり増えたので、情報発信を企業側からしてもらえるような仕組みを考えたいのではないか。

・転入されてきて、仕事を探されている方に、うまく、市内企業とマッチングできるような仕組みを考えたらどうか。

・YouTubeやインスタグラムなどの情報発信も検討したらどうか。

・兵庫型奨学金返済制度も、5年から最大17年に延長されるので、丹波篠山市としても市内企業の負担が軽減できるように考えていきたい。

以上、様々なご意見をいただき、ありがとうございました。

5. その他

6. 閉会

副委員長 あいさつ